

令和4年度  
市民意識調査（アンケート）  
結果報告書

令和5年7月  
鹿屋市

# 目 次

1	調査の概要	ページ
	(1) 目的	1
	(2) 抽出方法	1
	(3) 対象者数	1
	(4) 調査期間	1
	(5) 回答者数	1
	(6) アンケート回答者数の信頼性	1
2	回答者の状況	
	(1) 性別	2
	(2) 年齢	2
	(3) 家族構成	3
	(4) 職業	3
	(5) 住まい	4
	(6) 居住年数	4
	(7) オンラインでの回答状況	5
3	鹿屋市の住みやすさについて	
	(1) 住みやすさについて	6
	(2) 住みやすい理由（※前回との比較、居住地別）	7～8
	(3) 鹿屋市がより「住みやすいまち」になるには（※前回との比較、居住地別）	9～10
4	鹿屋市が実施している施策の認知度等について	
	(1) 基本施策の認知度と、取組を知っている人で「期待できない」と回答した人の割合	11
	(2) 各基本施策の統計	12～17
5	総合計画に記載されているKPIについて	
	(1) 男女平等意識について	
	①各分野における男女の地位の平等感	18～19
	②社会全体において男女が「平等である」と感じる人の割合	19
	(2) 子育てに対する環境や支援に満足している市民の割合	20
	(3) スポーツ実施率（過去1年間に週1回以上、運動・スポーツを行った割合）	21

別冊 自由意見

参考 調査票

# 1 調査の概要

## (1) 目的

統計資料等から把握できない内容を聞き取るとともに、第2次鹿屋市総合計画の各施策とその施策に基づき進めている取組が、市民にどの程度認知され、期待されているのかを分析し、その結果を今後の行政運営に生かすもの。

また、第2次鹿屋市総合計画に記載されているKPIの検証も行うもの。

## (2) 抽出方法

16歳以上の市民の中から無作為に抽出

## (3) 対象者数

2,500人

## (4) 調査期間

令和5年1月18日～2月8日（3週間）

## (5) 回答者数

803人（回答率 32.1%）

## (6) アンケートの信頼性

本来、アンケート調査を行う場合、その回答誤差をなくすためには、全母集団（全被験者）を対象とすることが理想であるが、母集団（被験者）の数が膨大な場合、効率的ではないため、適当なサンプル数（人数）を選んで行う。

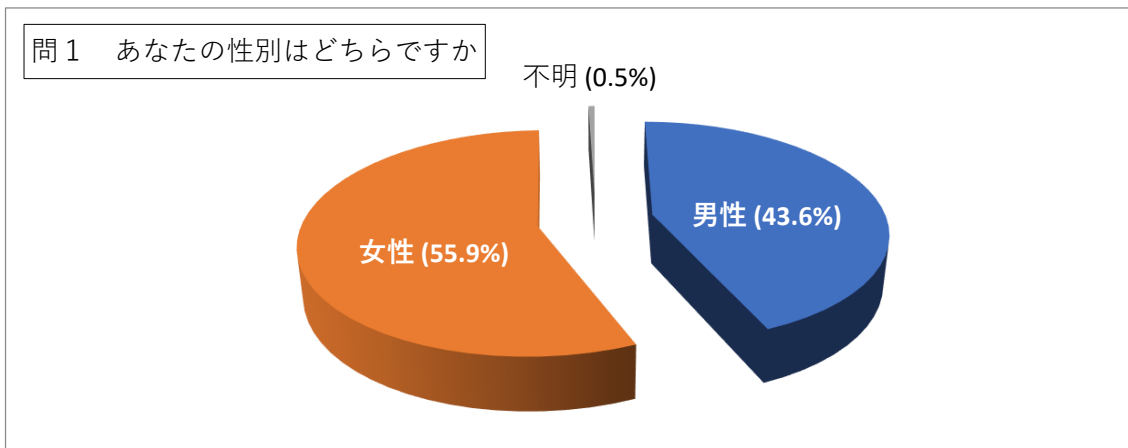
その場合、アンケート回答者数と回答誤差の関係は、当然、回答者数が少ないと誤差が大きく、回答者数が多いと誤差は小さくなるが、その関係は一定でなく、ある一定の数を超えると、回答者数を大幅に増やしても回答誤差はほとんど変わらない。

統計学的には、この「一定の数」は標本誤差が3～5%以内であればよいとされている。標本誤差3～5%となるためには、385人から1,067人の回答者数があればよく、今回のアンケートの回答者数は803人であるので、本調査は信頼性が確保されていると言える。

$n = 1.96^2 \times \frac{p(1-p)}{d^2}$	$1.96^2 \times \frac{0.5(1-0.5)}{0.05^2} = 384.2$
n：回答者数	$1.96^2 \times \frac{0.5(1-0.5)}{0.03^2} = 1067.1$
p：回答比率（50%で精度最大）	
d：標本誤差	※ 803人の時の標本誤差＝ 3.46%

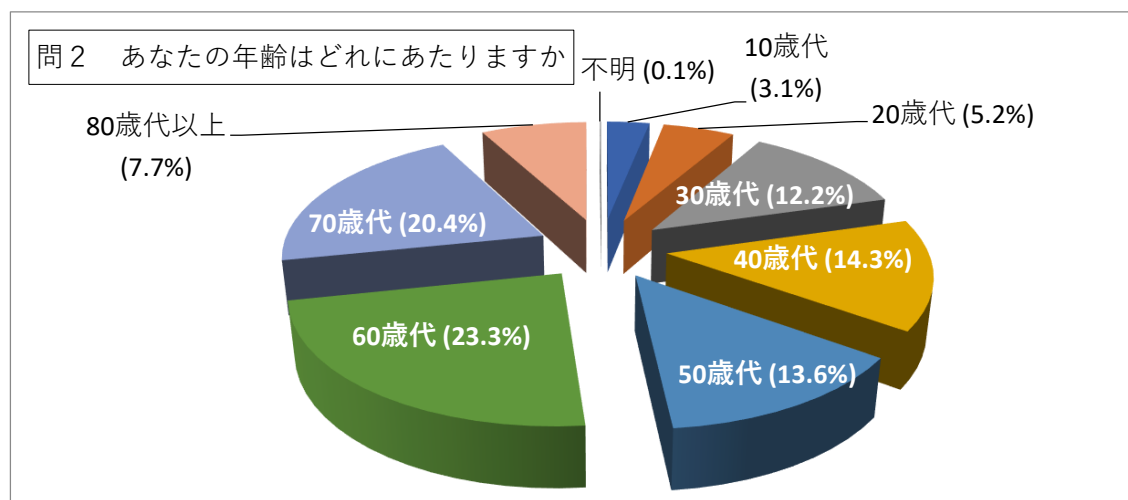
## 2 回答者の状況

### (1) 性別



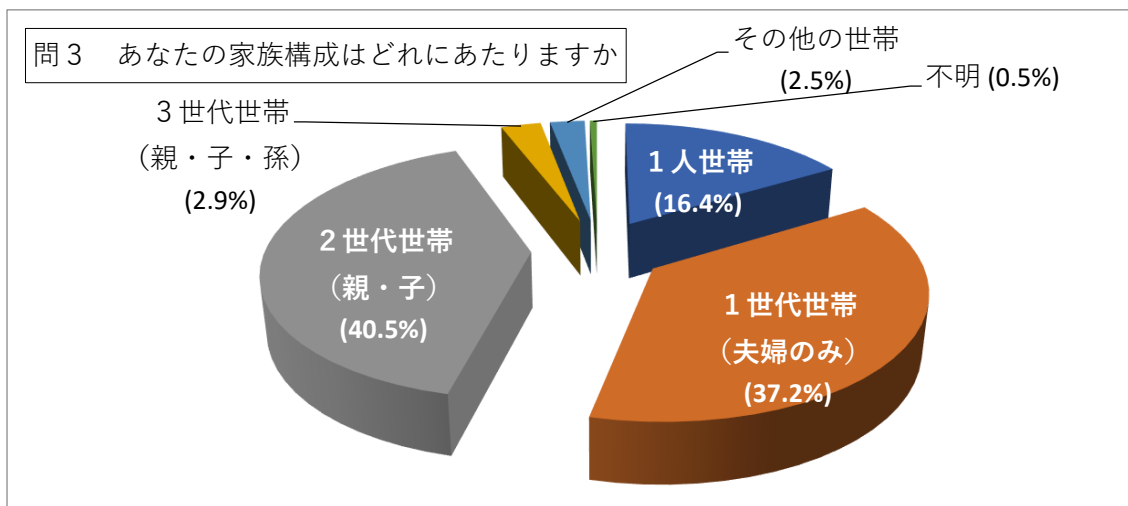
	回答者数	割合
男性	350人	43.6%
女性	449人	55.9%

### (2) 年齢



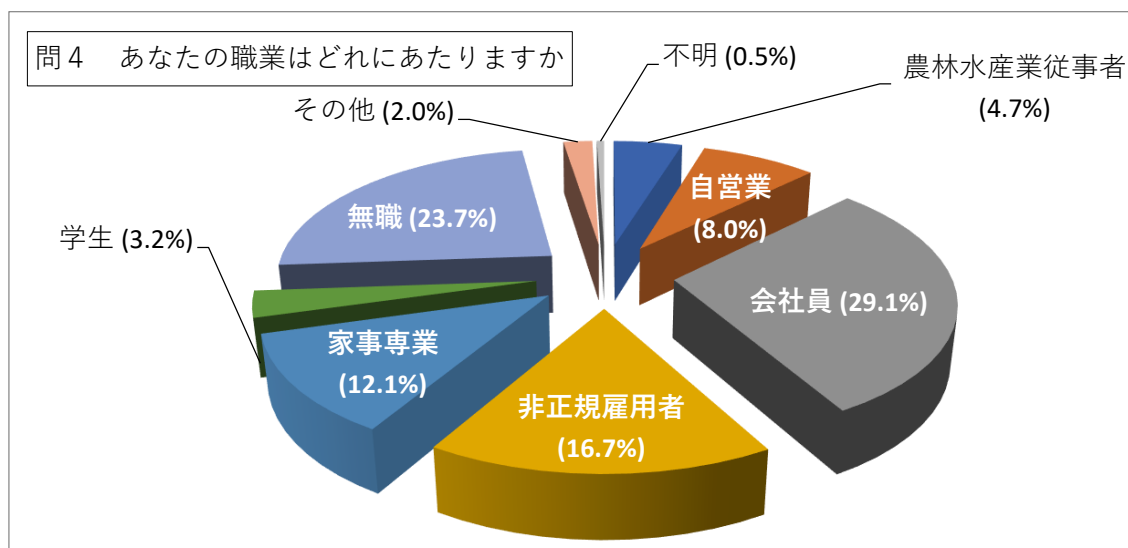
	回答者数	割合
10歳代	25人	3.1%
20歳代	42人	5.2%
30歳代	98人	12.2%
40歳代	115人	14.3%
50歳代	109人	13.6%
60歳代	187人	23.3%
70歳代	164人	20.4%
80歳代以上	62人	7.7%

(3) 家族構成



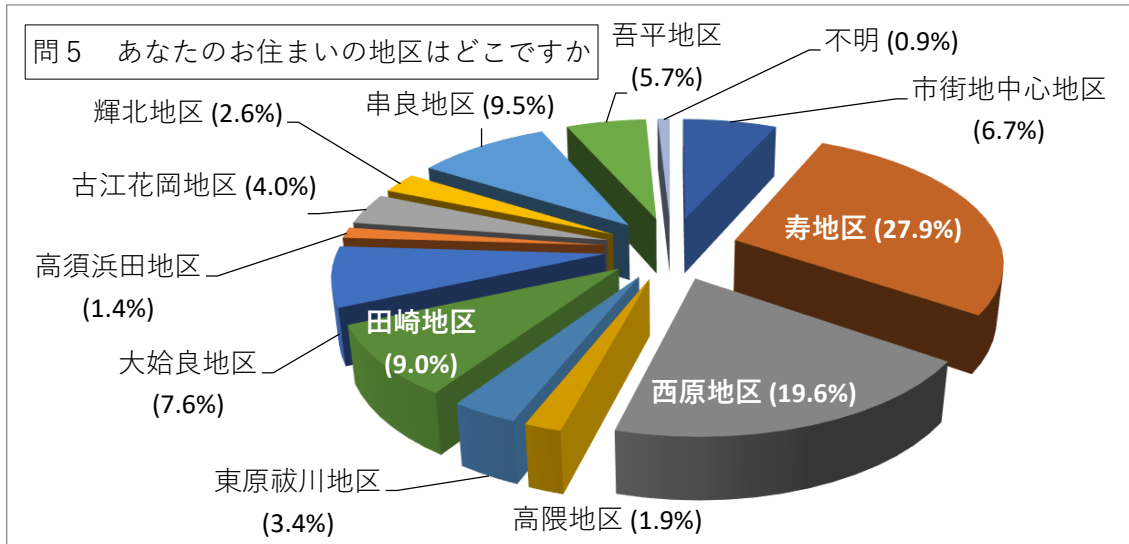
	回答者数	割合
1人世帯	132人	16.4%
1세대世帯 (夫婦のみ)	299人	37.2%
2세대世帯 (親・子)	325人	40.5%
3세대世帯 (親・子・孫)	23人	2.9%
その他の世帯	20人	2.5%

(4) 職業



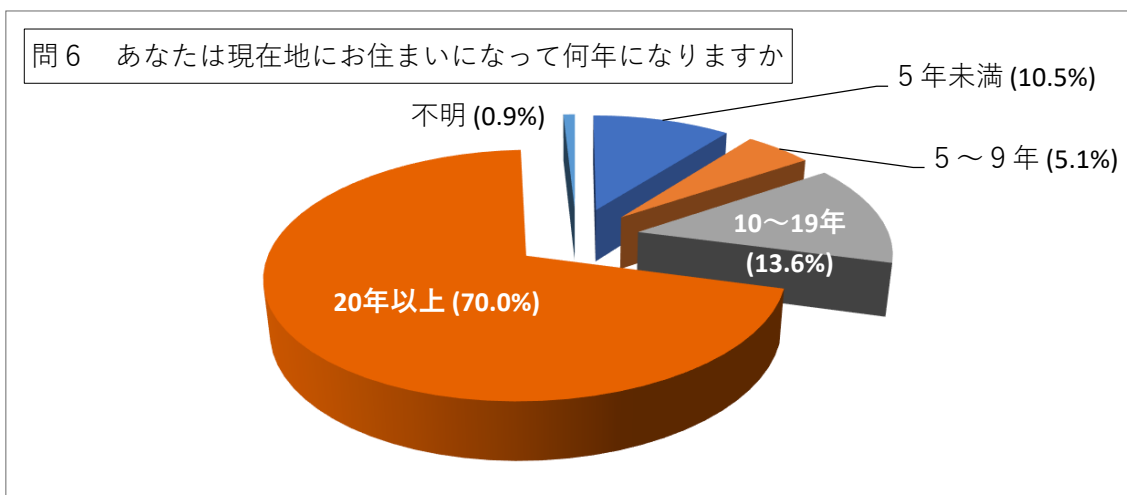
	回答者数	割合		回答者数	割合
農林水産業	38人	4.7%	家事専業	97人	12.1%
自営業	64人	8.0%	学生	26人	3.2%
会社員	234人	29.1%	無職	190人	23.7%
非正規雇用者	134人	16.7%	その他	16人	2.0%

(5) 住まい



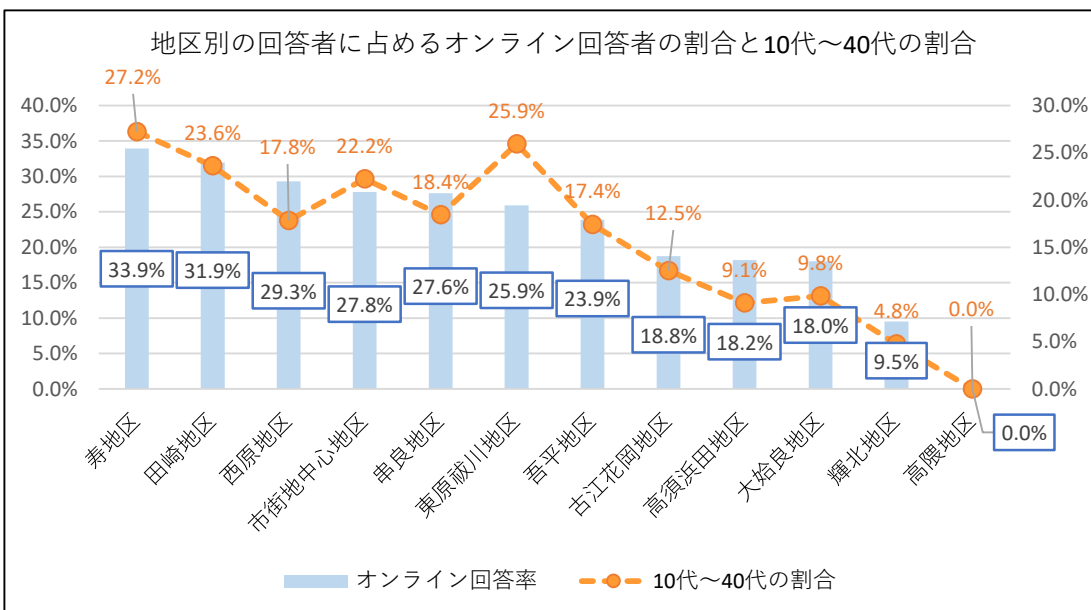
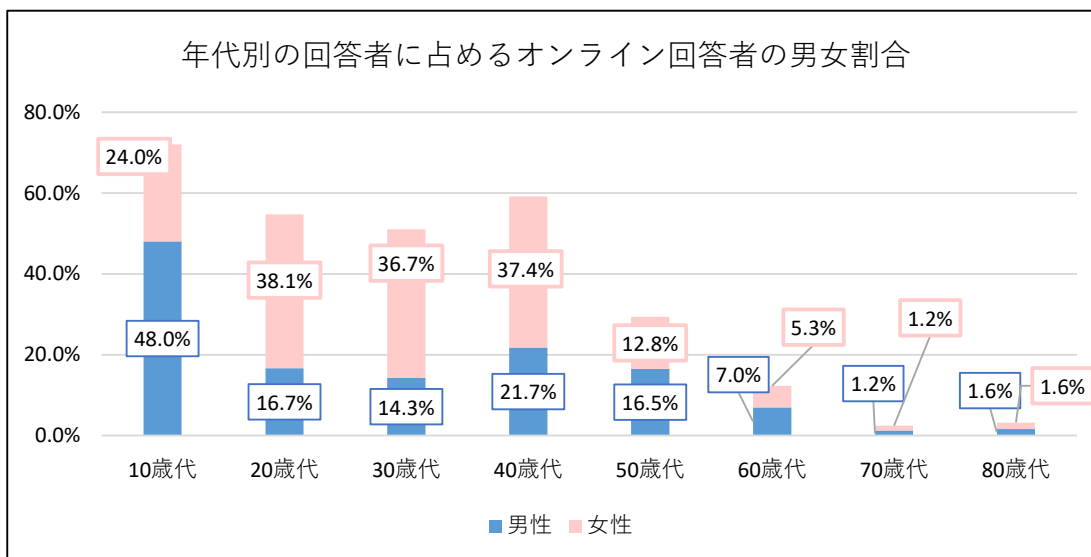
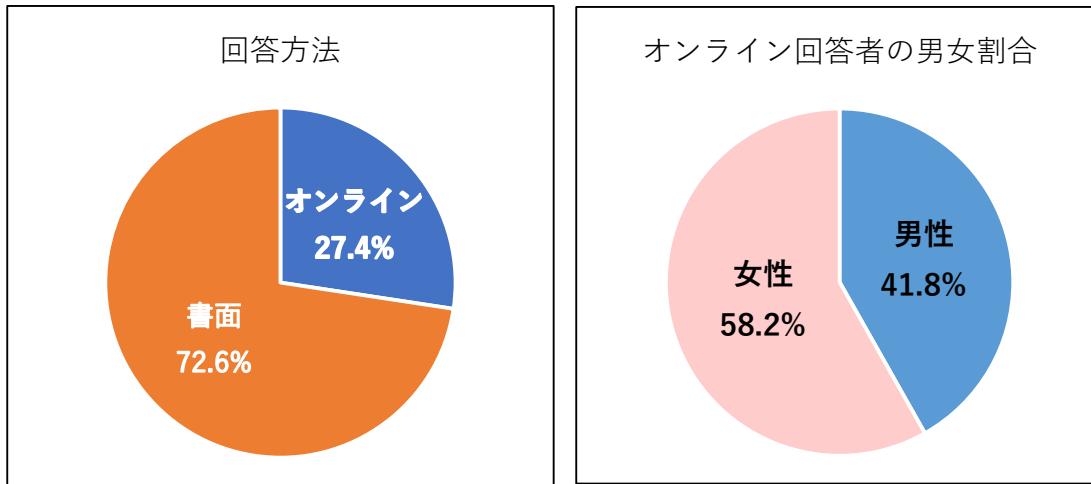
	回答者数	割合		回答者数	割合
中心市街地	54人	6.7%	大始良	61人	7.6%
寿	224人	27.9%	高須・浜田	11人	1.4%
西原	157人	19.6%	古江・花岡	32人	4.0%
高隈	15人	1.9%	輝北	21人	2.6%
東原・祓川	27人	3.4%	串良	76人	9.5%
田崎	72人	9.0%	吾平	46人	5.7%

(6) 居住年数



	回答者数	割合
5年未満	84人	10.5%
5年~9年	41人	5.1%
10年~19年	109人	13.6%
20年以上	562人	70.0%

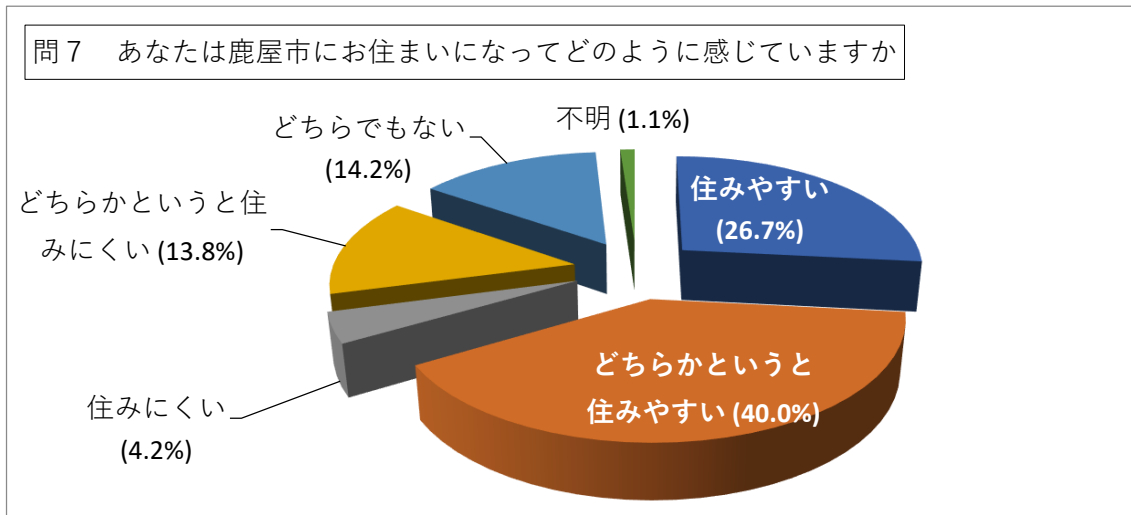
(7) オンラインでの回答状況



10代～40代の回答者では、半数以上がオンラインで回答しており、特に10代は72%がオンラインでの回答と突出している。

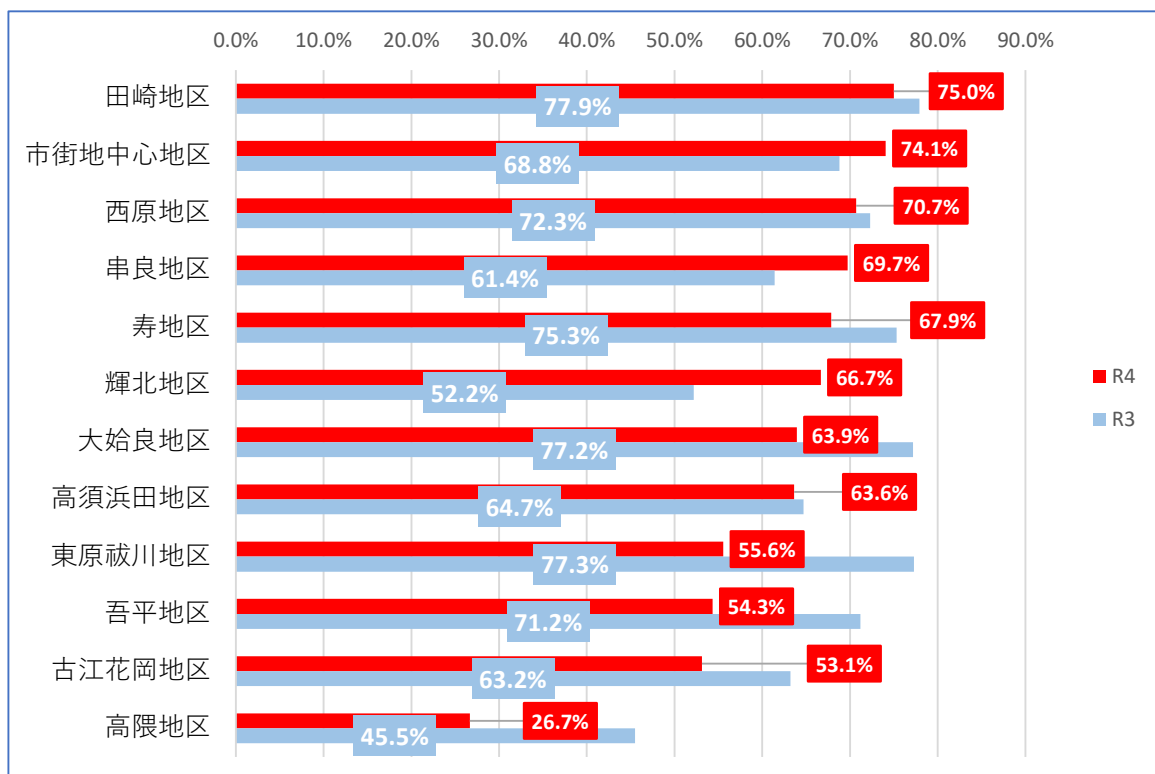
### 3 鹿屋市の住みやすさについて

#### (1) 住みやすさについて



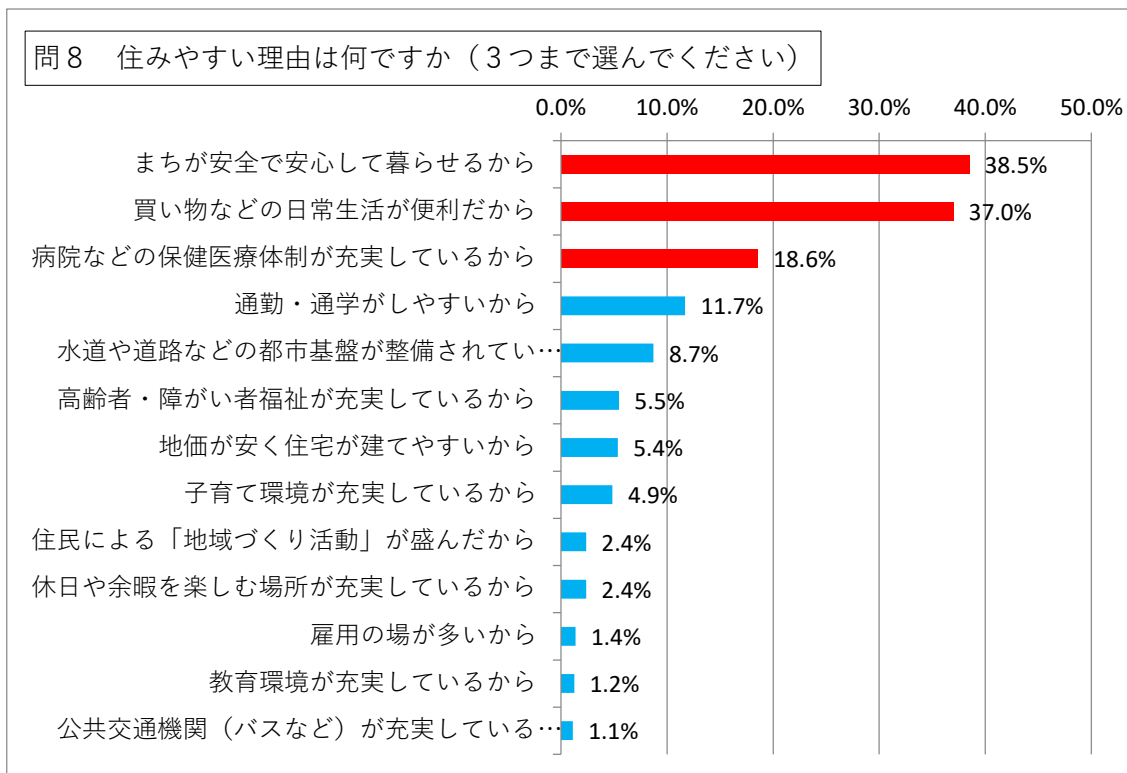
	回答者数	割合
住みやすい	214人	26.7%
どちらかというに住みやすい	321人	40.0%
住みにくい	34人	4.2%
どちらかというに住みにくい	111人	13.8%
どちらでもない	114人	14.2%

#### ※居住地別の住みやすさ





## (2) 住みやすい理由



※前回（R3）との比較

順位	項目	R4		R3	
		割合	順位 前年比較	割合	順位
1	まちが安全で安心して暮らせるから	38.5%	↑	41.7%	2
2	買い物などの日常生活が便利だから	37.0%	↓	43.0%	1
3	病院などの保健医療体制が充実しているから	18.6%	→	22.6%	3
4	通勤・通学がしやすいから	11.7%	→	11.9%	4
5	水道や道路などの都市基盤が整備されているから	8.7%	→	8.6%	5
6	高齢者・障がい者福祉が充実しているから	5.5%	↑	5.0%	8
7	地価が安く住宅が建てやすいから	5.4%	↓	7.2%	6
8	子育て環境が充実しているから	4.9%	↓	6.1%	7
9	住民による「地域づくり活動」が盛んだから	2.4%	↑	3.0%	10
10	休日や余暇を楽しむ場所が充実しているから	2.4%	↓	3.9%	9
11	雇用の場が多いから	1.4%	↑	0.8%	13
12	教育環境が充実しているから	1.2%	↓	1.4%	11
13	公共交通機関（バスなど）が充実しているから	1.1%	↓	0.9%	12

◆上位3項目、下位3項目に変わりなし。

※R4転入転出アンケートにおける「転出者に聞いた満足度が高かった項目」でも、上位2項目に「買い物などの日常生活が便利」・「まちが安全で安心して暮らせる」がランクインされる。

※居住地別の「住みやすい理由」（上位3つ）

## 中心市街地

- 買い物などの日常生活が便利だから
- まちが安全で安心して暮らせるから
- 病院などの保健医療体制が充実しているから

## 寿地区

- 買い物などの日常生活が便利だから
- まちが安全で安心して暮らせるから
- 病院などの保健医療体制が充実しているから

## 西原地区

- 買い物などの日常生活が便利だから
- まちが安全で安心して暮らせるから
- 病院などの保健医療体制が充実しているから

## 高隈地区

- まちが安全で安心して暮らせるから
- 水道や道路などの都市基盤が整備されているから
- 病院などの保健医療体制が充実しているから
- 通勤・通学がしやすいから

## 東原・祓川地区

- まちが安全で安心して暮らせるから
- 買い物などの日常生活が便利だから
- 病院などの保健医療体制が充実しているから

## 田崎地区

- まちが安全で安心して暮らせるから
- 買い物などの日常生活が便利だから
- 病院などの保健医療体制が充実しているから

## 大始良地区

- まちが安全で安心して暮らせるから
- 買い物などの日常生活が便利だから
- 病院などの保健医療体制が充実しているから

## 高須・浜田地区

- まちが安全で安心して暮らせるから
- 通勤・通学がしやすいから
- 休日や余暇を楽しむ場所が充実しているから

## 古江・花岡地区

- まちが安全で安心して暮らせるから
- 病院などの保健医療体制が充実しているから
- 買い物などの日常生活が便利だから
- 高齢者・障がい者福祉が充実しているから

## 輝北地区

- まちが安全で安心して暮らせるから
- 買い物などの日常生活が便利だから
- 病院などの保健医療体制が充実しているから

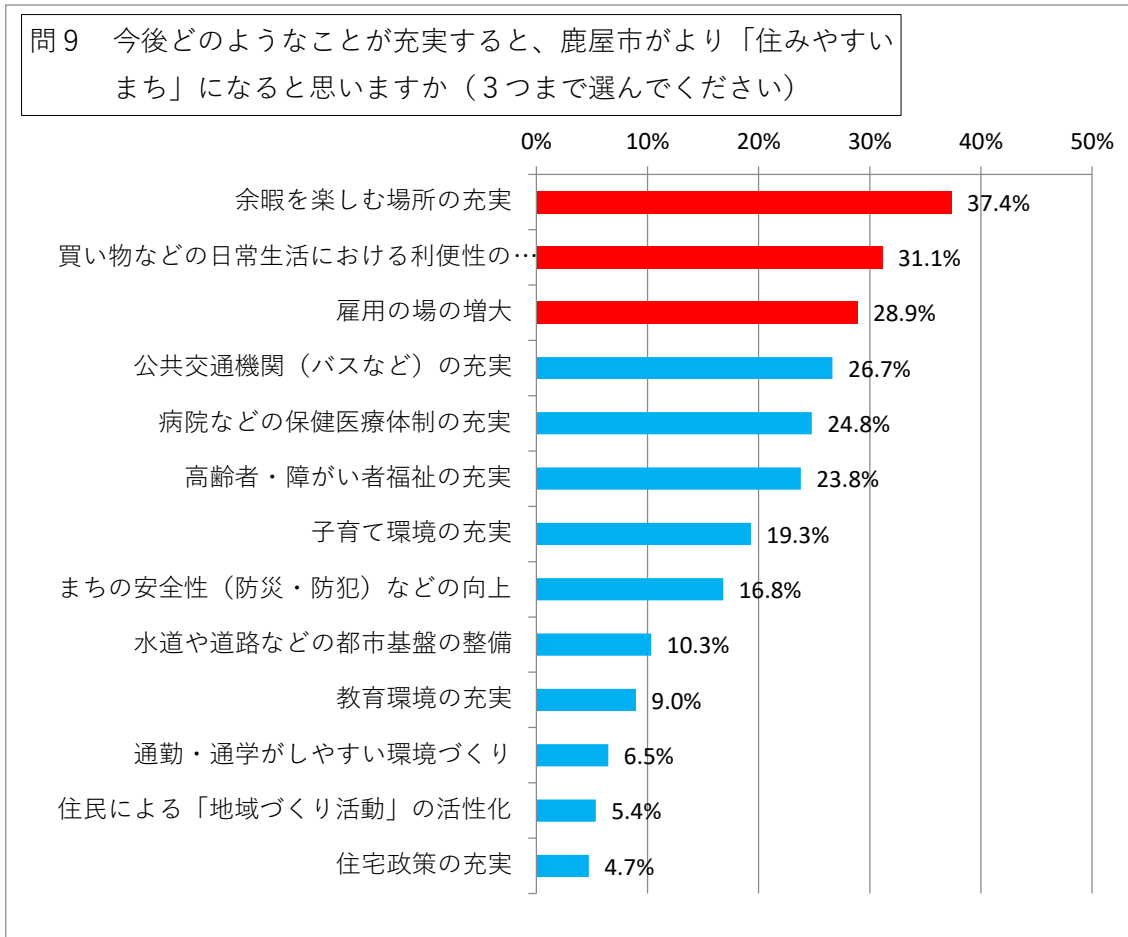
## 串良地区

- まちが安全で安心して暮らせるから
- 買い物などの日常生活が便利だから
- 病院などの保健医療体制が充実しているから

## 吾平地区

- まちが安全で安心して暮らせるから
- 買い物などの日常生活が便利だから
- 水道や道路などの都市基盤が整備されているから

(3) 鹿屋市がより「住みやすいまち」になるには



※前回（R3）との比較

順位	項目	R4		R3	
		割合	順位 前年比較	割合	順位
1	余暇を楽しむ場所の充実	37.4%	→	34.9%	1
2	買物などの日常生活における利便性の向上	31.1%	↗	23.6%	4
3	雇用の場の増大	28.9%	↘	28.4%	2
4	公共交通機関（バスなど）の充実	26.7%	↘	24.3%	3
5	病院などの保健医療体制の充実	24.8%	↗	18.7%	7
6	高齢者・障がい者福祉の充実	23.8%	↘	20.1%	5
7	子育て環境の充実	19.3%	↗	15.7%	8
8	まちの安全性（防災・防犯）などの向上	16.8%	↘	19.0%	6
9	水道や道路などの都市基盤の整備	10.3%	→	10.3%	9
10	教育環境の充実	9.0%	→	8.6%	10
11	通勤・通学がしやすい環境づくり	6.5%	→	6.0%	11
12	住民による「地域づくり活動」の活性化	5.4%	→	4.8%	12
13	住宅政策の充実	4.7%	→	3.7%	13

◆上位3項目に「買物などの日常生活における利便性の向上」がランクイン。  
 ※R4転入転出アンケートにおける「転出者に聞いた本市がより暮らしやすくなるために望む項目」でも、上位2項目に「余暇を楽しむ場所の充実」・「雇用の場の増大」がランクイン。

※居住地別の「より住みやすいまち」になるために必要なこと（上位3つ）

## 中心市街地

- ・余暇を楽しむ場所の充実
- ・買い物などの日常生活における利便性の向上
- ・高齢者・障がい者福祉の充実

## 寿地区

- ・余暇を楽しむ場所の充実
- ・雇用の場の増大
- ・公共交通機関(バスなど)の充実

## 西原地区

- ・余暇を楽しむ場所の充実
- ・雇用の場の増大
- ・公共交通機関(バスなど)の充実

## 高隈地区

- ・買い物などの日常生活における利便性の向上
- ・子育て環境の充実
- ・病院などの保健医療体制の充実

## 東原・祓川地区

- ・余暇を楽しむ場所の充実
- ・買い物などの日常生活における利便性の向上
- ・公共交通機関(バスなど)の充実

## 田崎地区

- ・余暇を楽しむ場所の充実
- ・雇用の場の増大
- ・買い物などの日常生活における利便性の向上

## 大始良地区

- ・雇用の場の増大
- ・買い物などの日常生活における利便性の向上
- ・余暇を楽しむ場所の充実

## 高須・浜田地区

- ・公共交通機関(バスなど)の充実
- ・買い物などの日常生活における利便性の向上
- ・雇用の場の増大
- ・病院などの保健医療体制の充実

## 古江・花岡地区

- ・買い物などの日常生活における利便性の向上
- ・余暇を楽しむ場所の充実
- ・公共交通機関(バスなど)の充実

## 輝北地区

- ・買い物などの日常生活における利便性の向上
- ・雇用の場の増大
- ・公共交通機関(バスなど)の充実

## 串良地区

- ・高齢者・障がい者福祉の充実
- ・余暇を楽しむ場所の充実
- ・買い物などの日常生活における利便性の向上
- ・病院などの保健医療体制の充実

## 吾平地区

- ・買い物などの日常生活における利便性の向上
- ・余暇を楽しむ場所の充実
- ・公共交通機関(バスなど)の充実
- ・病院などの保健医療体制の充実

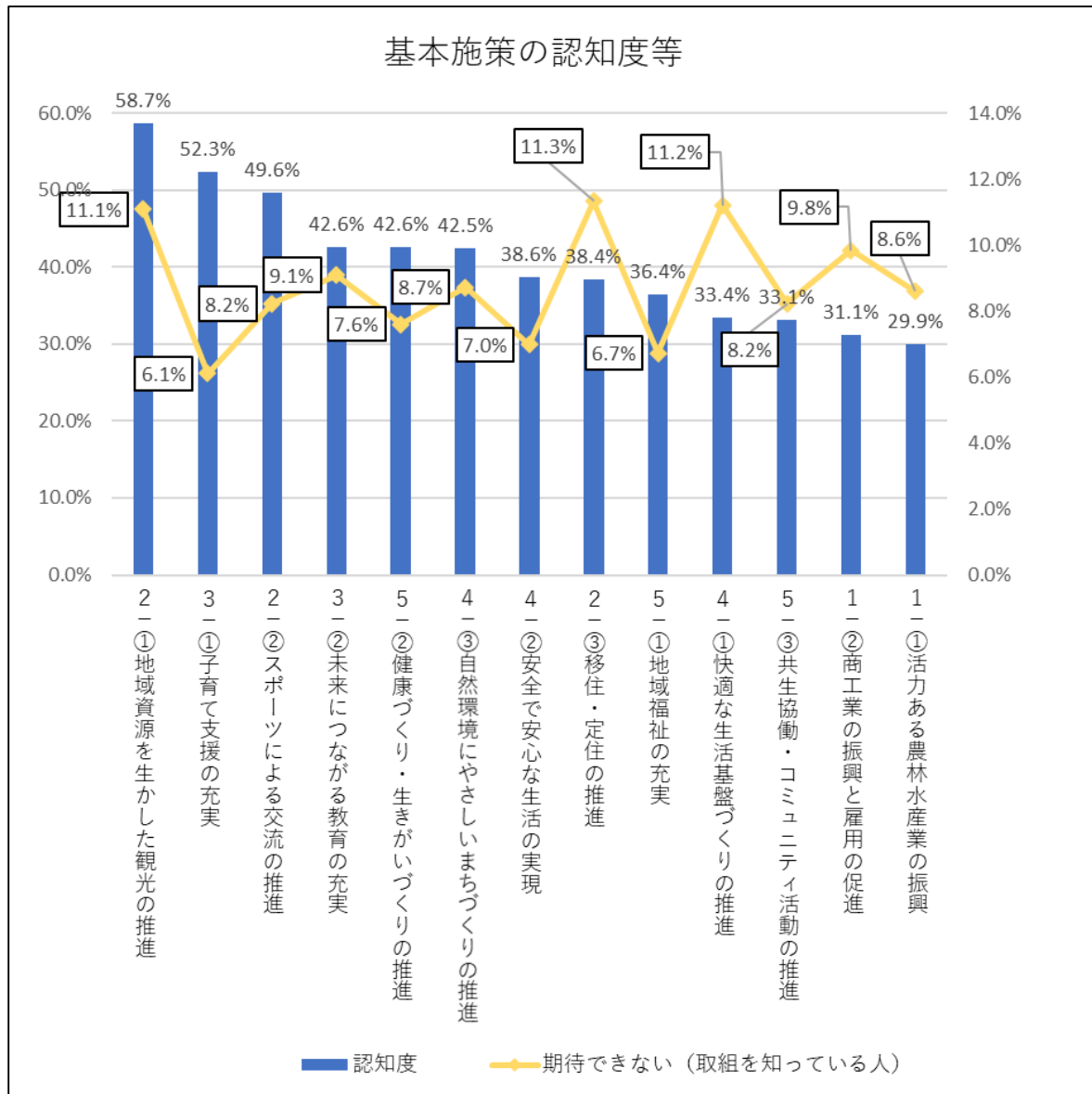
## 4 鹿屋市が実施している施策の認知度等について

### (1) 基本施策の認知度と、取組を知っている人で「期待できない」と回答した人の割合

「(2-①)地域資源を生かした観光の推進」、「(3-①)子育て支援の充実」などの施策が市民の認知度が高い。

昨年同様に「(2-③)移住・定住の推進」、「(4-①)快適な生活基盤づくりの推進」は、取組を知っている人で「期待できない」と回答した人の割合が高く、また認知度が一番高い「(2-①)地域資源を生かした観光の推進」においても「期待できない」の回答割合が高くなっているため、効果的な取組の推進と適確・適切な情報発信が求められる。

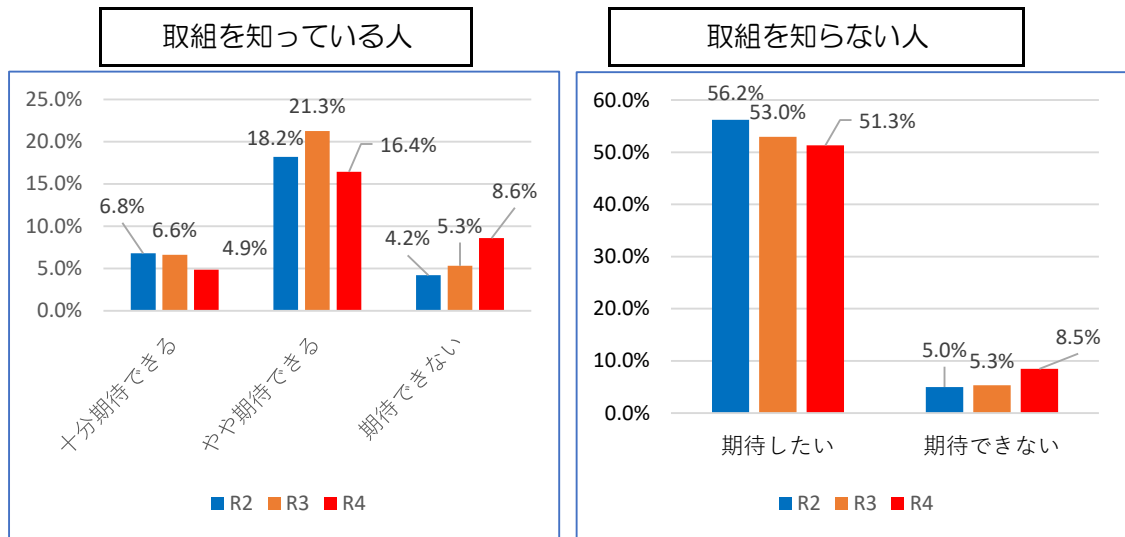
なお、取組を知らない人は全ての施策で「期待したい」と回答した割合が高くなっている。



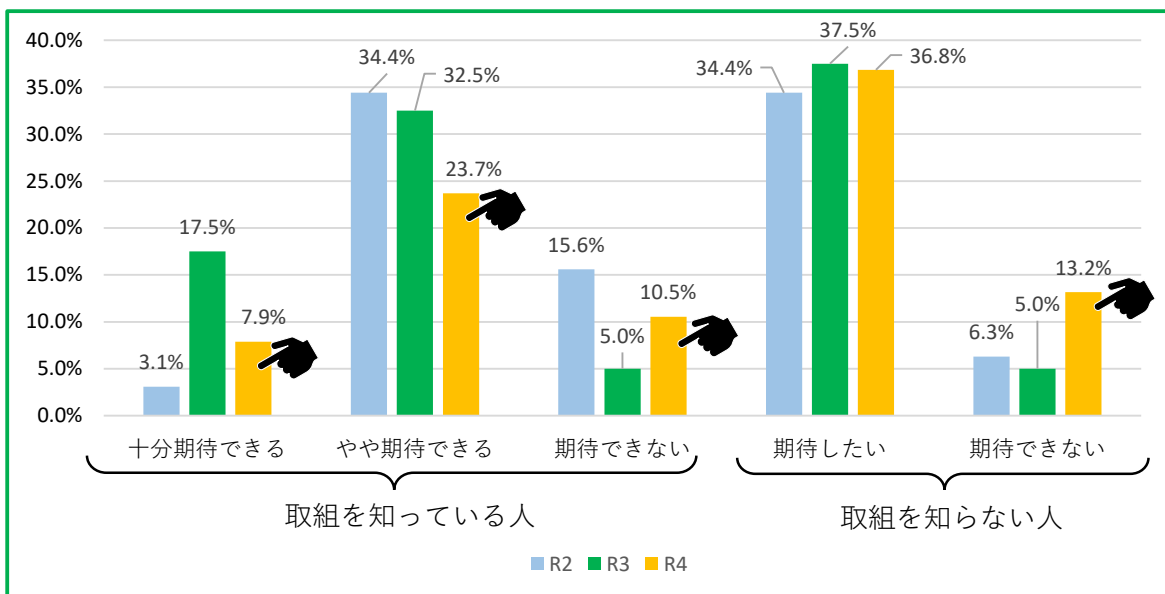
(2) 各基本施策の統計（※年度別）

<基本目標1 やってみたい仕事ができるまち>

①活力ある農林水産業の振興

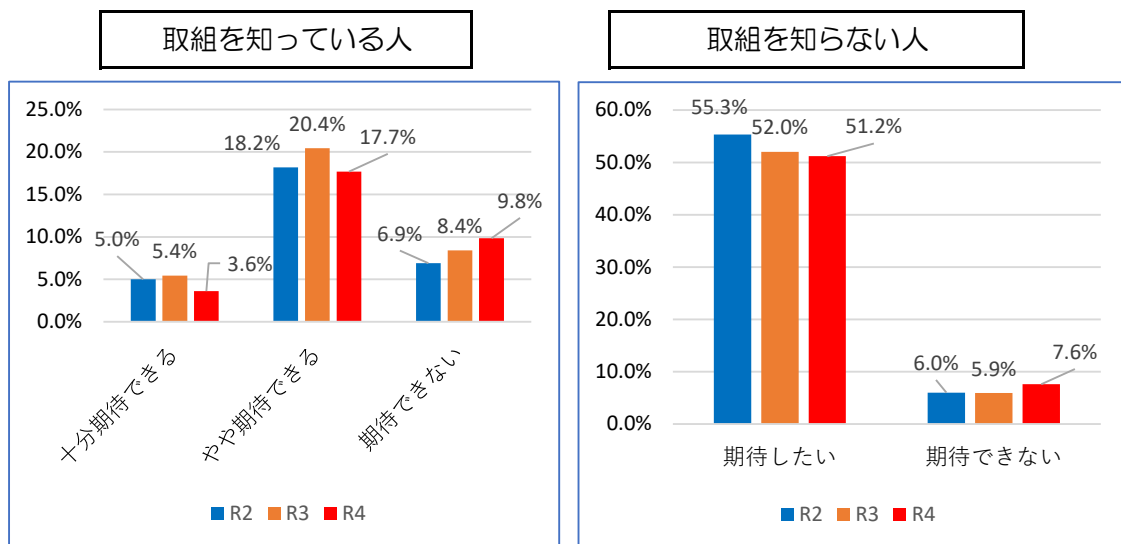


※農林水産業従事者の統計

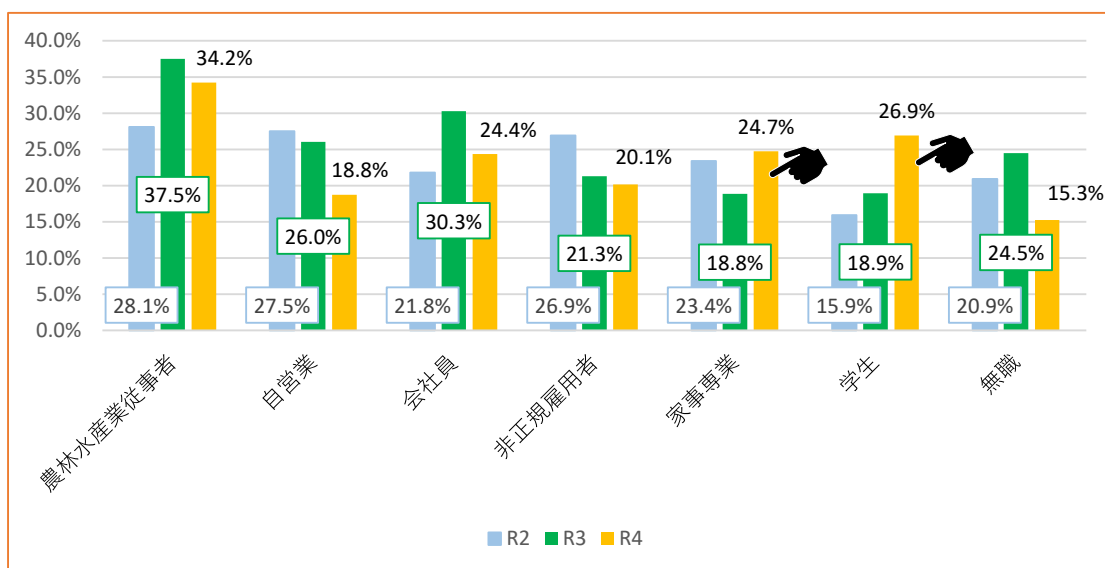


◆農林水産業従事者の取組を知っている人の期待度を見ると、昨年と比較すると、取組を知っている人で「十分期待できる」、「やや期待できる」と回答した人の割合が減少し、「期待できない」と回答した人の割合が増加している。

②商工業の振興と雇用の促進



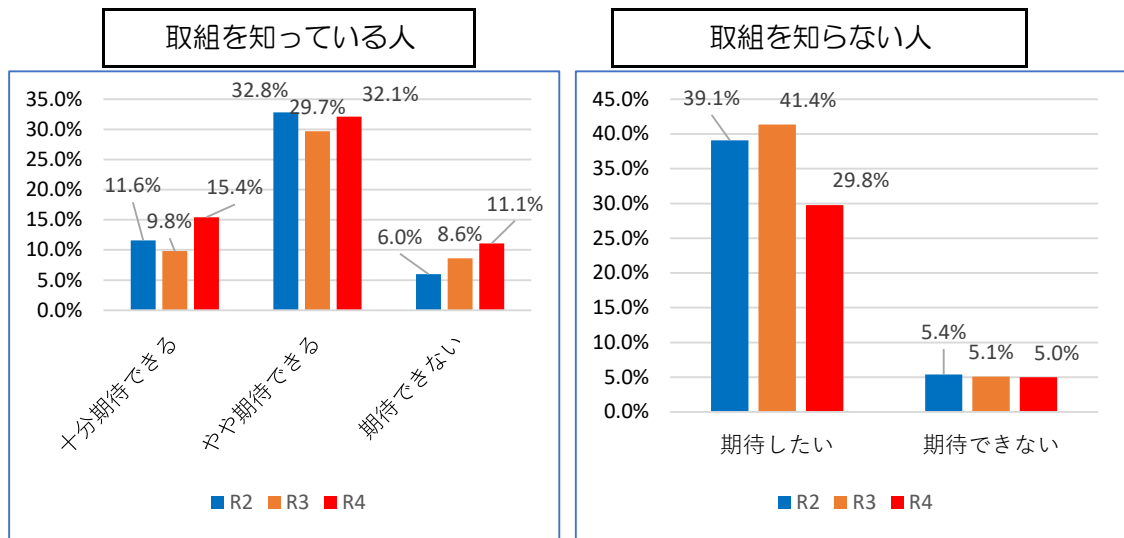
※職業別の期待度（取組を知っている人）



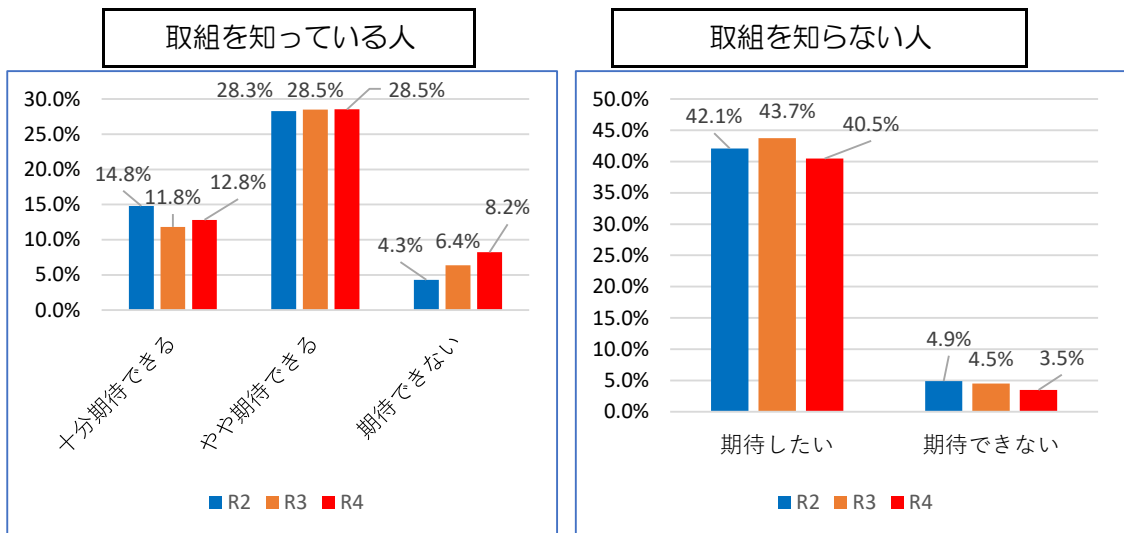
◆職業別に取り組を知っている人の期待度を見ると、『学生』・『家事専業』の方において、過去最高となっている一方、『自営業』・『非正規雇用者』・『無職』の方においては、過去最低となっている。

<基本目標2 いつでも訪れやすいまち>

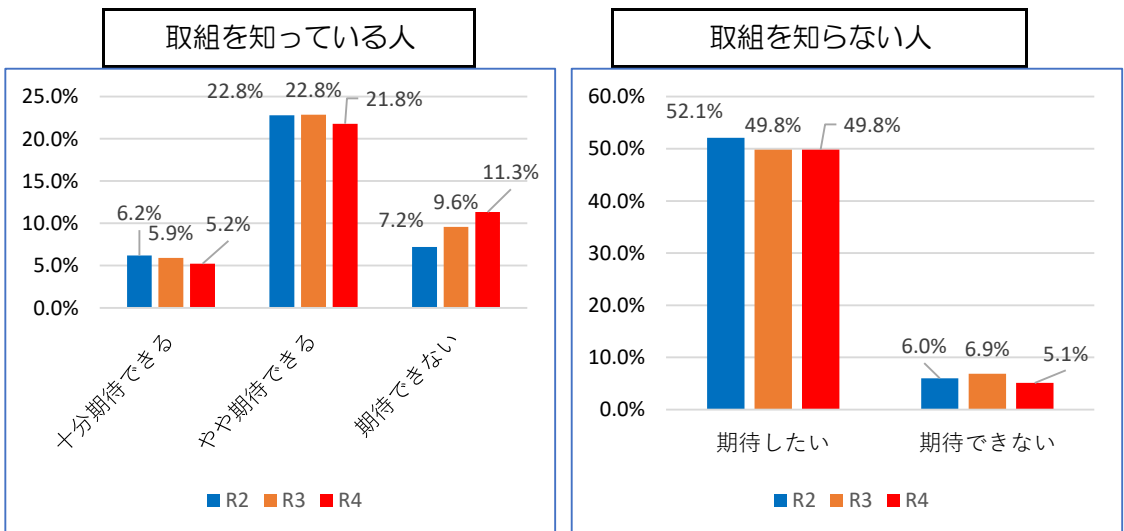
①地域資源を生かした観光の推進



②スポーツによる交流の推進



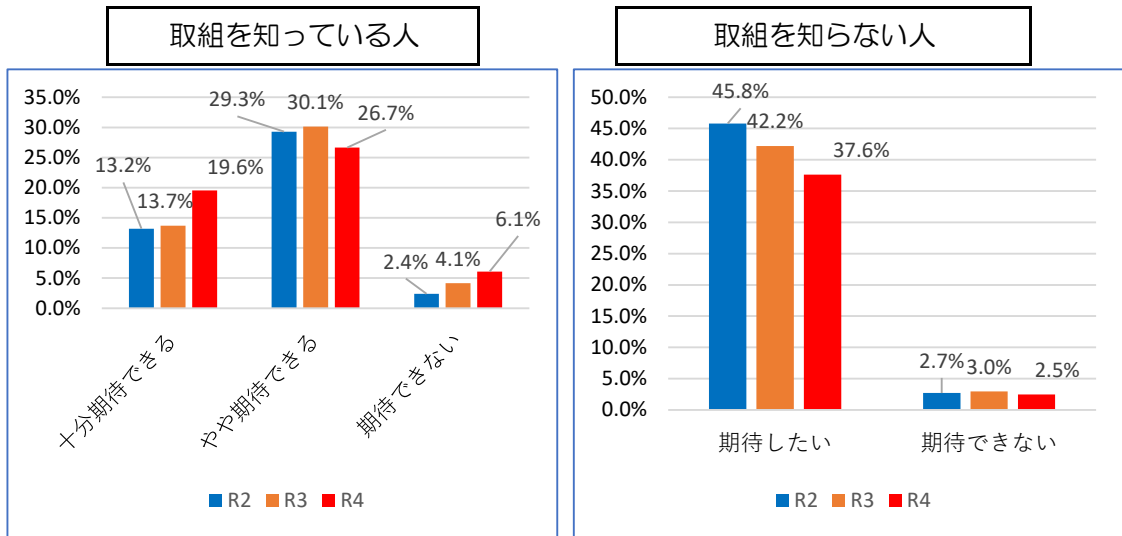
③移住・定住の推進



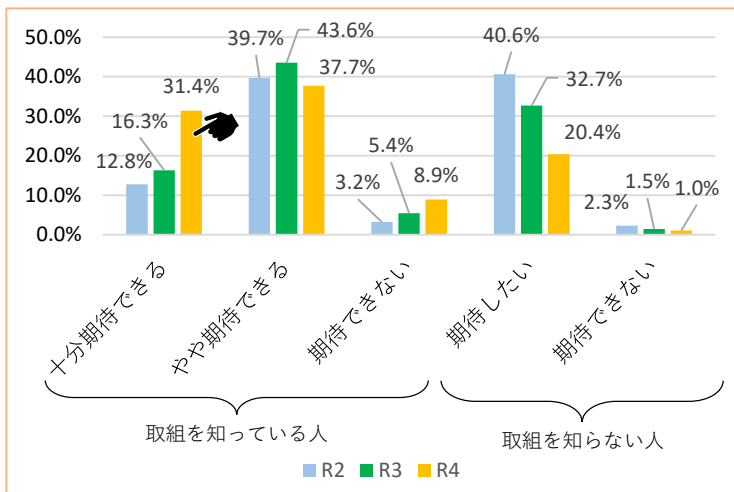


<基本目標3 子育てしやすいまち>

①子育て支援の充実

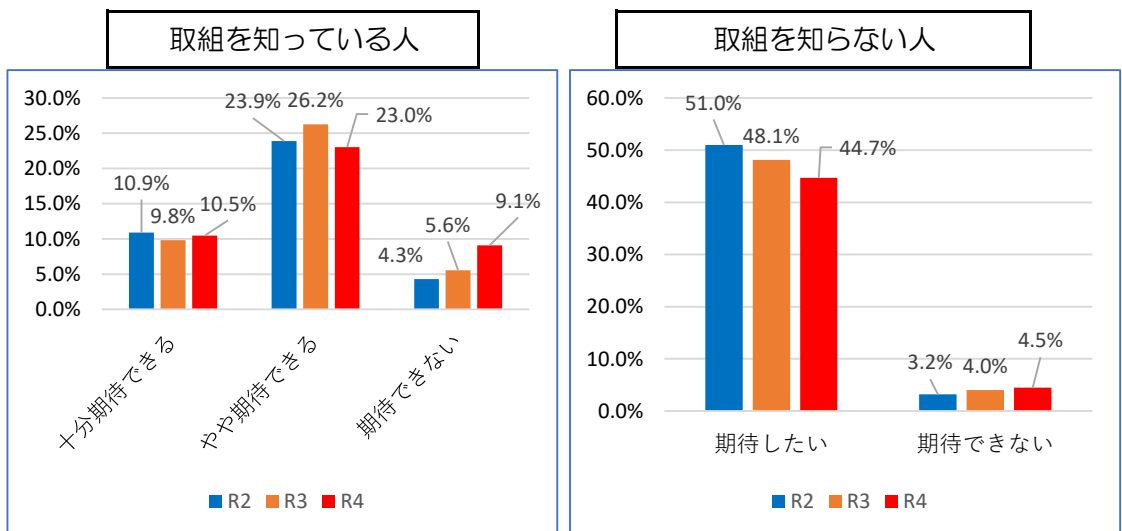


※子育て世代（20～40歳代の2世代世帯・3世代世帯）の統計



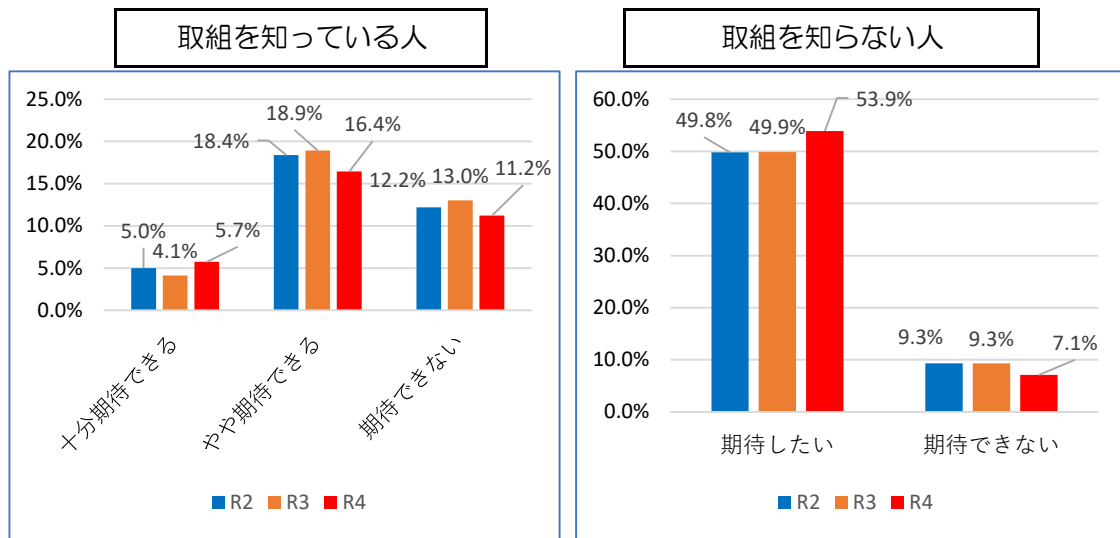
◆子育て世代の施策の認知度が高まっており、国の子育て支援策拡充方針やこども家庭庁の創設など、子育て支援への関心が高まっていることも理由の一つと考えられる。また、取組を知っている人の期待度を見ると、「十分期待できる」と回答した人の割合が大幅に増加している。

②未来につながる教育の充実

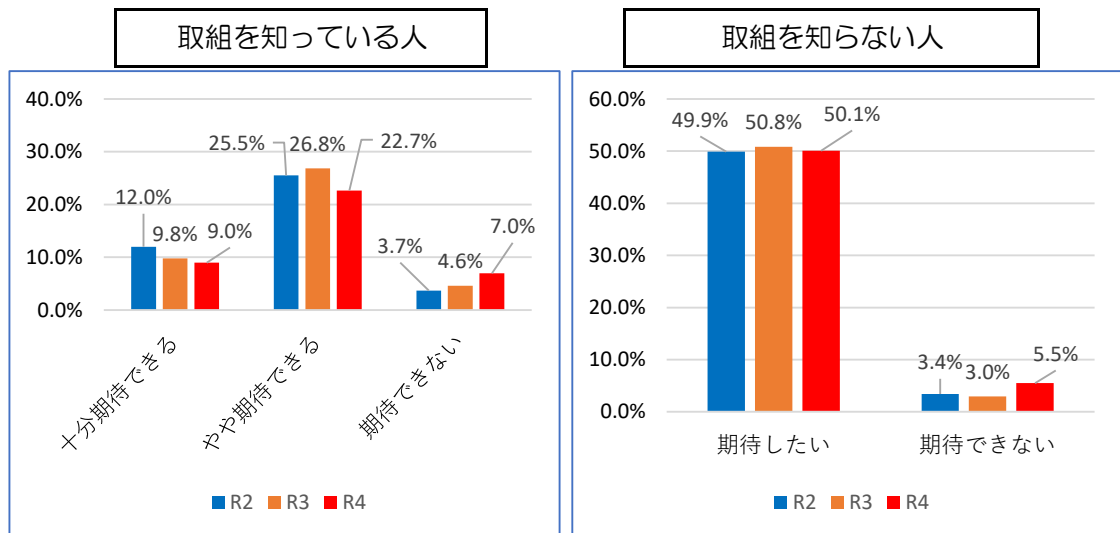


<基本目標4 未来につながる住みよいまち>

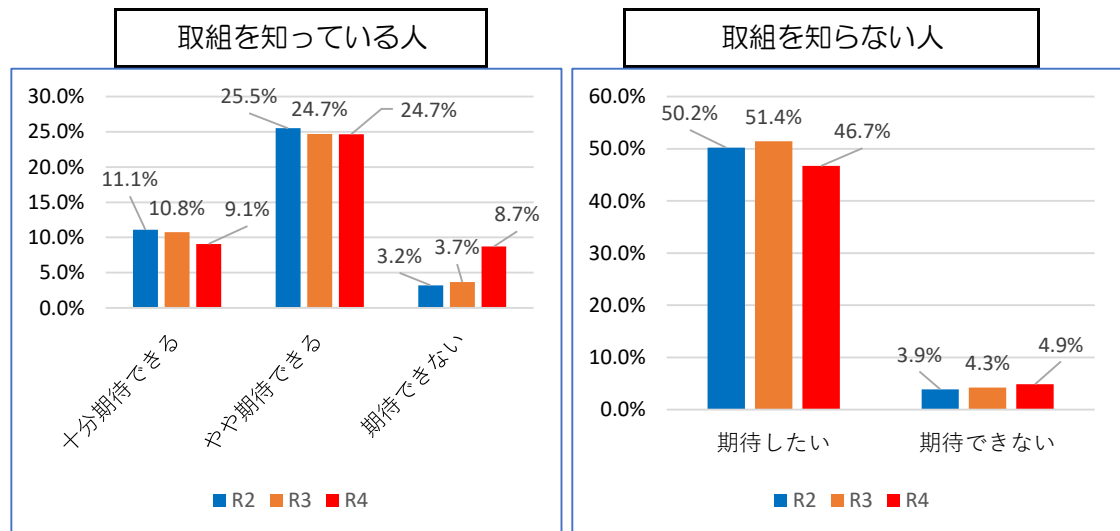
①快適な生活基盤づくりの推進



②安全で安心な生活の実現

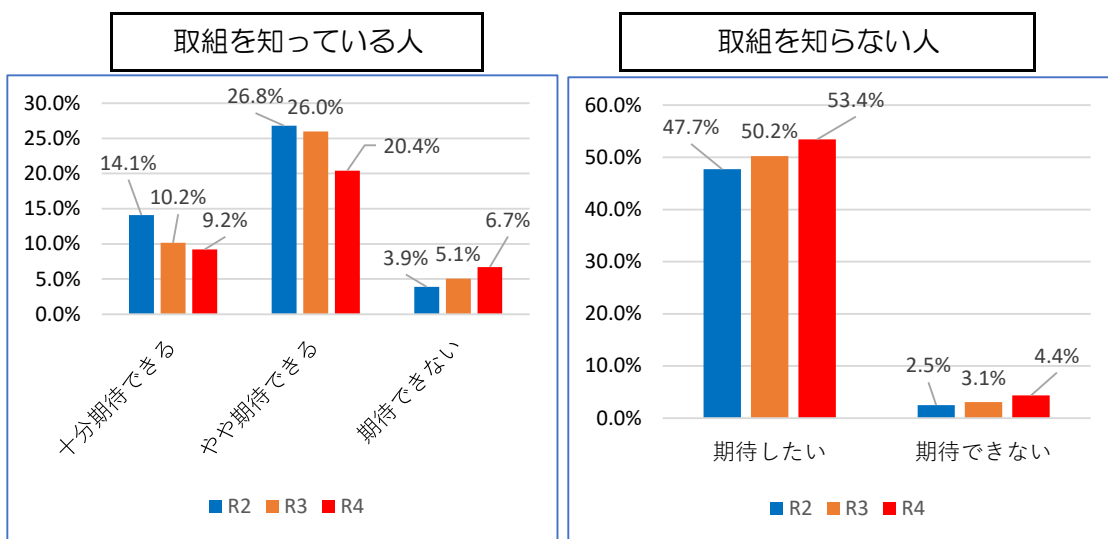


③自然環境にやさしいまちづくりの推進

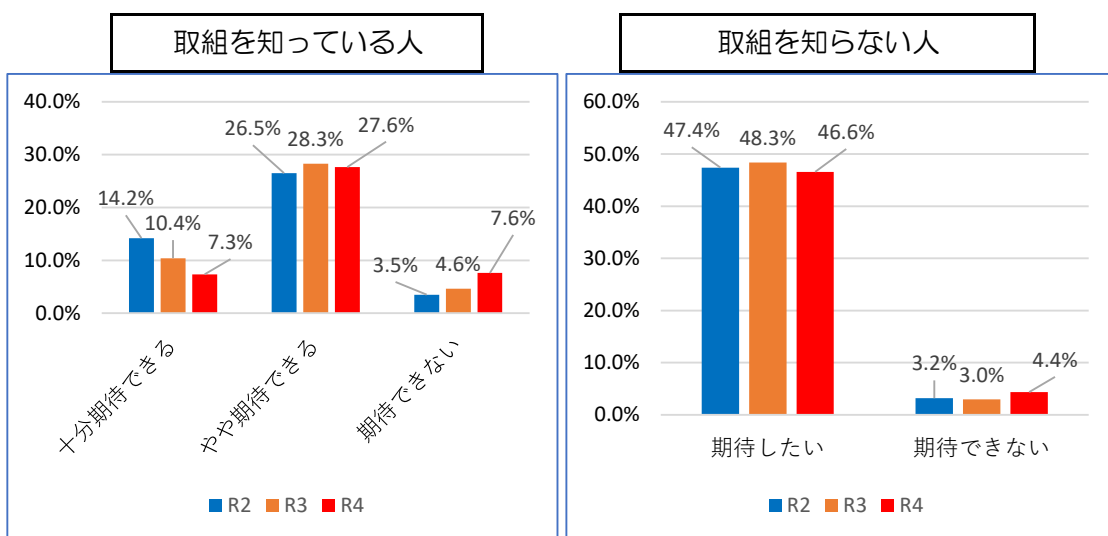


<基本目標5 ともに支えあい、いきいきと暮らせるまち>

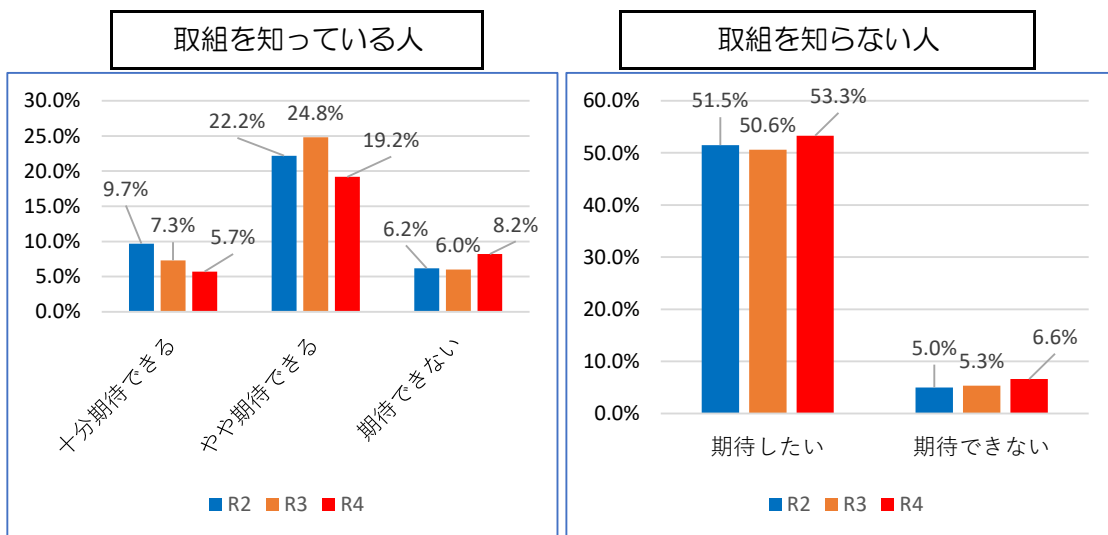
①地域福祉の充実



②健康づくり・生きがいづくりの推進



③共生協働・コミュニティ活動の推進

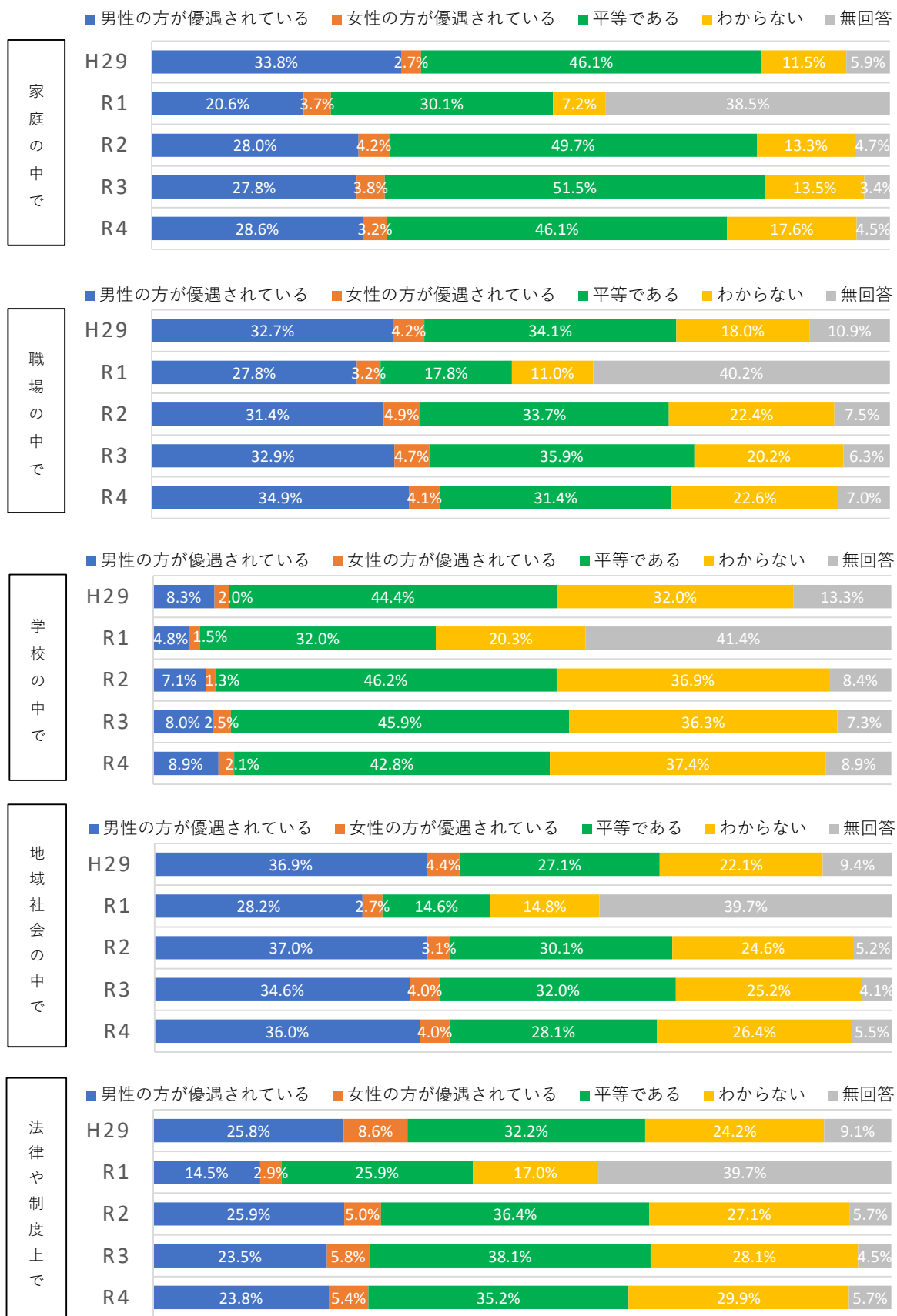


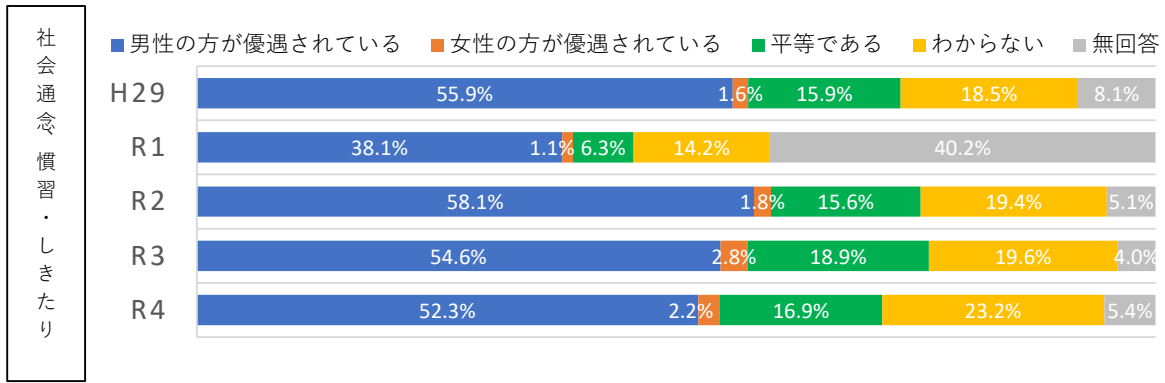
基本目標別の自由意見については別冊参照

## 5 総合計画に記載されているKPIについて

### (1) 男女平等意識について

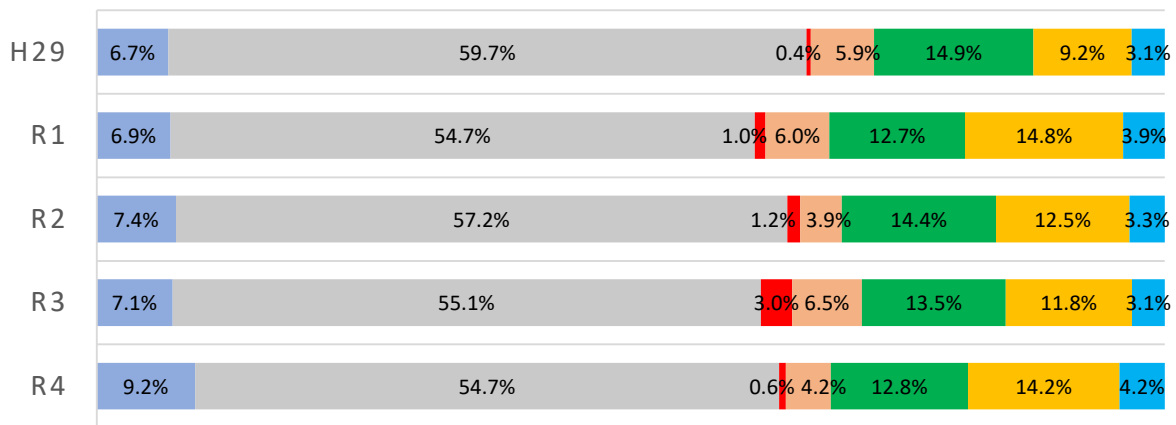
#### ①各分野における男女の地位の平等感





## ②社会全体において男女が「平等である」と感じる人の割合

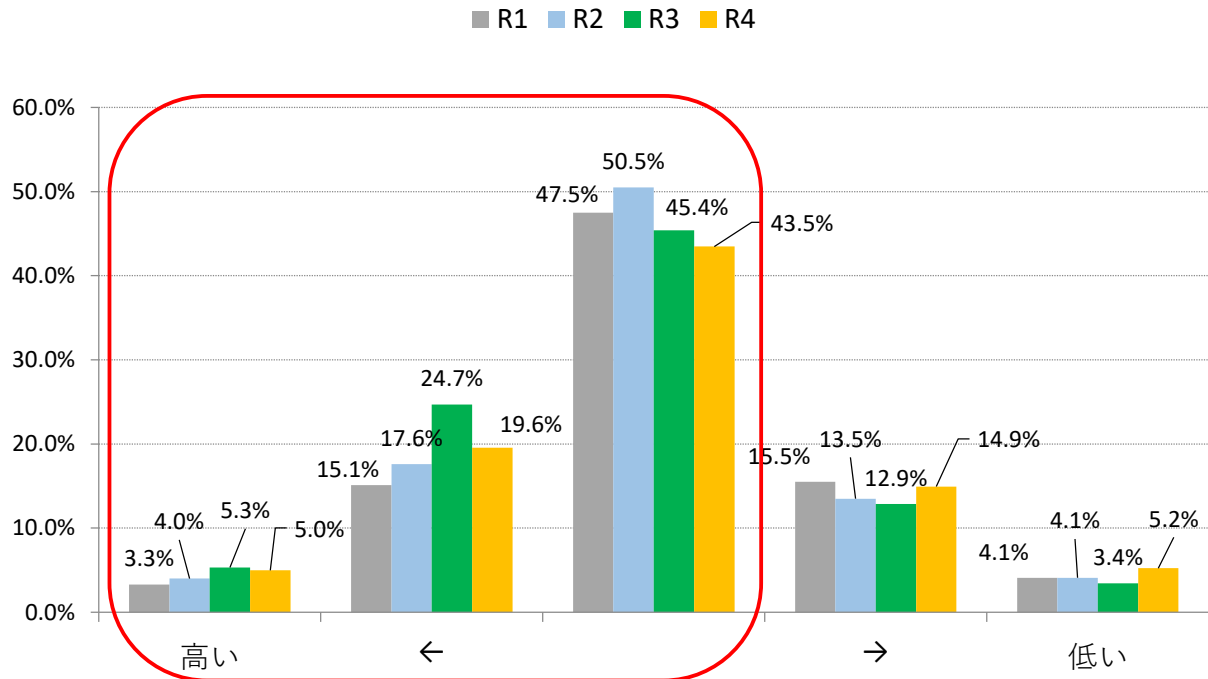
- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 平等である
- わからない
- 無回答



基準値	前々回	前回	今回	目標値
14.9%	14.4%	13.5%	12.8%	20.0%
H29	R2	R3	R4	R6

◆「社会全体」でみると、「平等である」の回答割合が前回調査よりも下がっている。  
 ⇒「男性の方が非常に優遇されている」、「分からない」の割合が増えたことや各分野別に見ると、「社会通念・慣習・しきたり」以外の項目で男性優遇が前回調査よりも上昇していることが背景にあると考えられる。

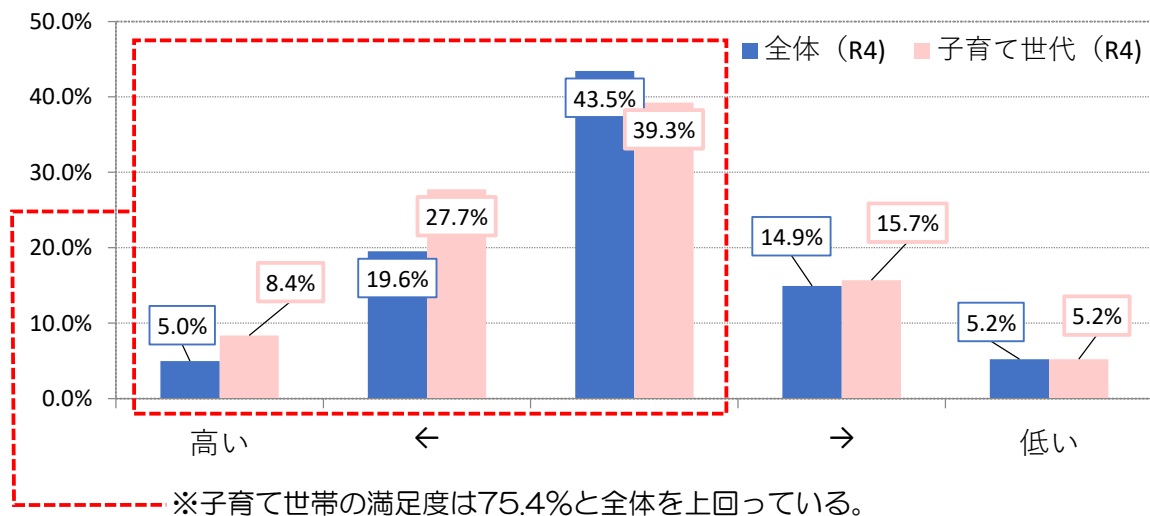
(2) 子育てに対する環境や支援に満足している市民の割合



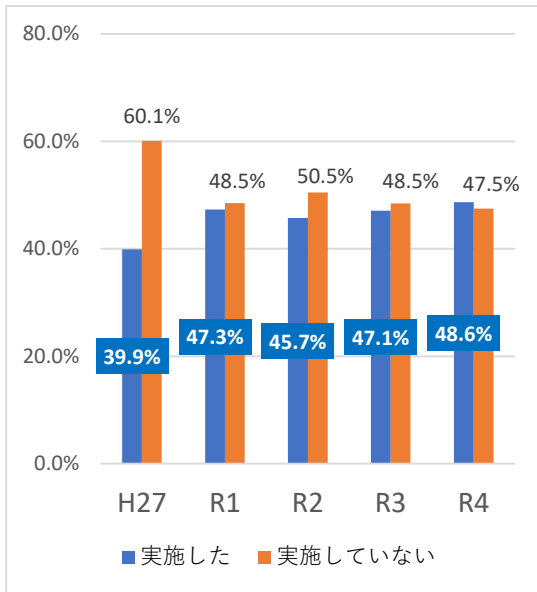
基準値	前々回	前回	今回	目標値
65.1%	72.1%	75.4%	68.0%	75.0%
H30	R2	R3	R4	R6

(※選択肢の1～3の合計)

※子育て世代（20～40歳代の2世代世帯・3世代世帯）の統計との比較



(3) スポーツ実施率（成人（※）が過去1年間に週1回以上、運動・スポーツを行った割合）



基準値	前々回	前回	今回	目標値
39.9%	45.7%	47.1%	48.6%	65.0%
H27	R2	R3	R4	R6

コロナ禍におけるスポーツへの参画状況の変化等があった中、コロナ前を上回るスポーツ実施率となり、実施者が未実施者を上回った。

また、オンラインでの回答者の方がスポーツ実施率が高く（59.9%）、スマホ等を活用したスポーツイベントやオンライン配信など、多様な楽しみ方が創出されたことも影響していると思われる。

※成人…本調査においては20歳代以上としている

※参考：年代別のスポーツ・文化的活動の実施率

